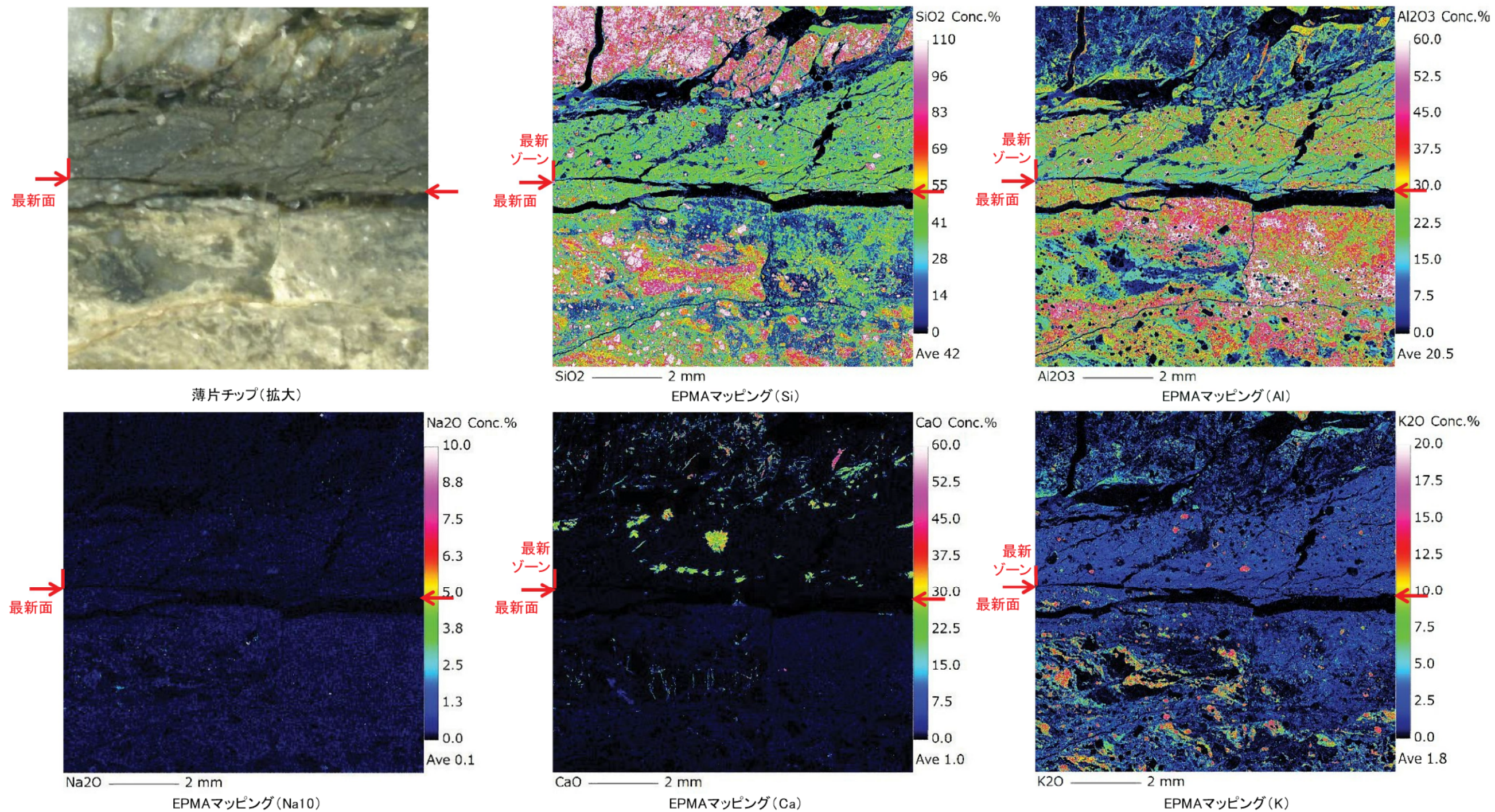


破碎部のEPMA分析結果

228.91m付近)について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
・破碎部のEPMAマッピングにより、最新ゾーンの粘土鉱物脈の主成分組成を比較する。

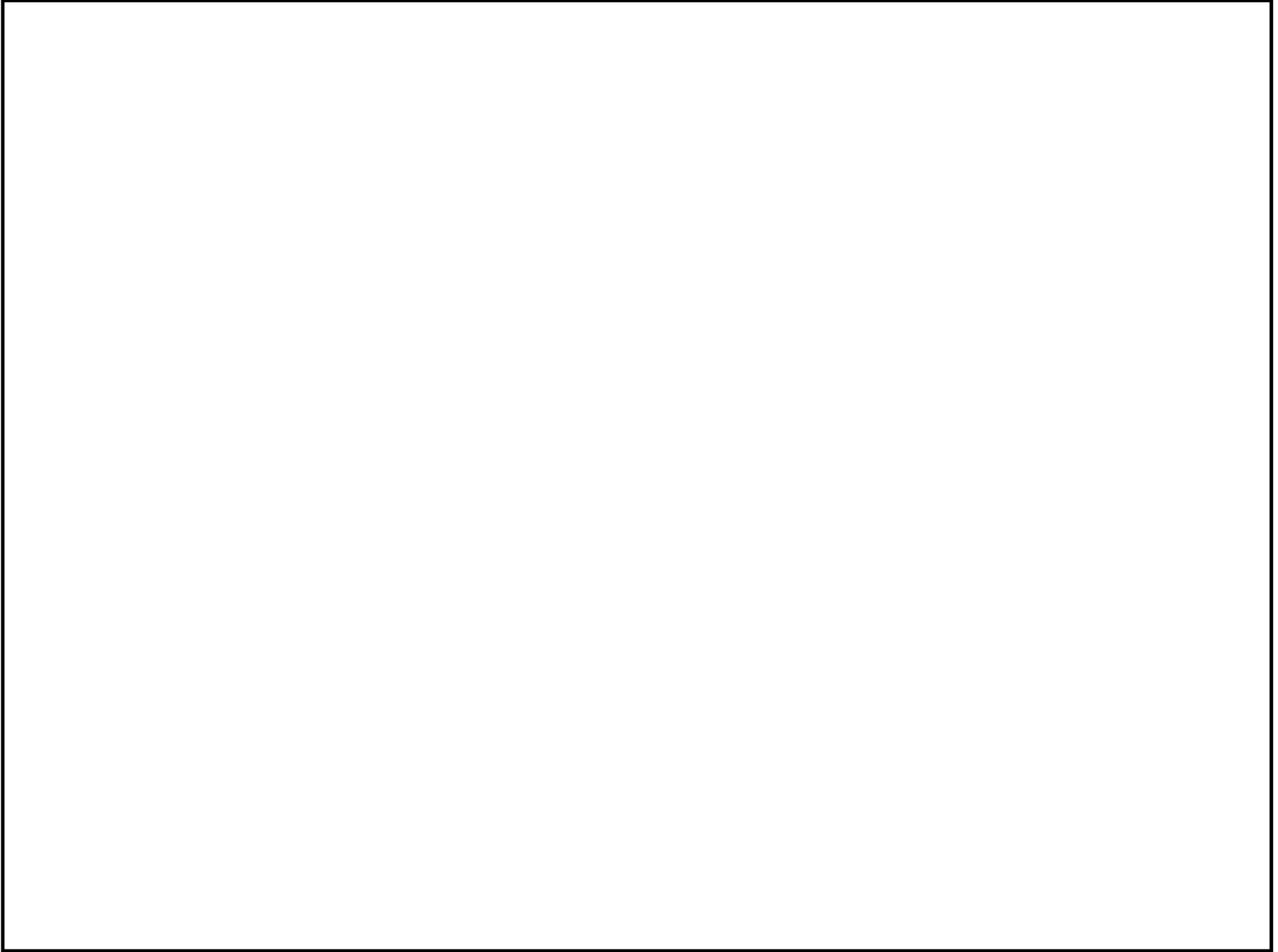


・最新ゾーンの粘土鉱物脈は、EPMAマッピングでの主成分の組成に違いがない
(例えば、Alなど)ため、分帯は認められない。

・最新ゾーンには分帯が認められないことから、XRD分析結果で認められた雲母粘土鉱物とスメクタイトは混在していると考えられる。

第 1.8.15 図(3) 破碎部の EPMA 分析結果

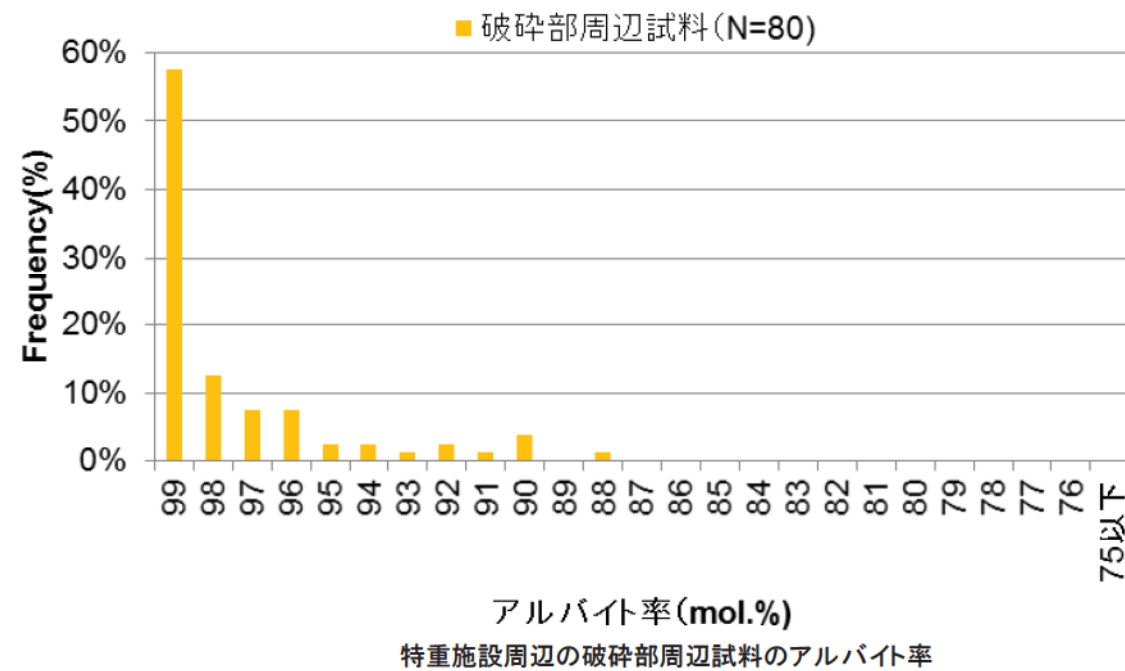
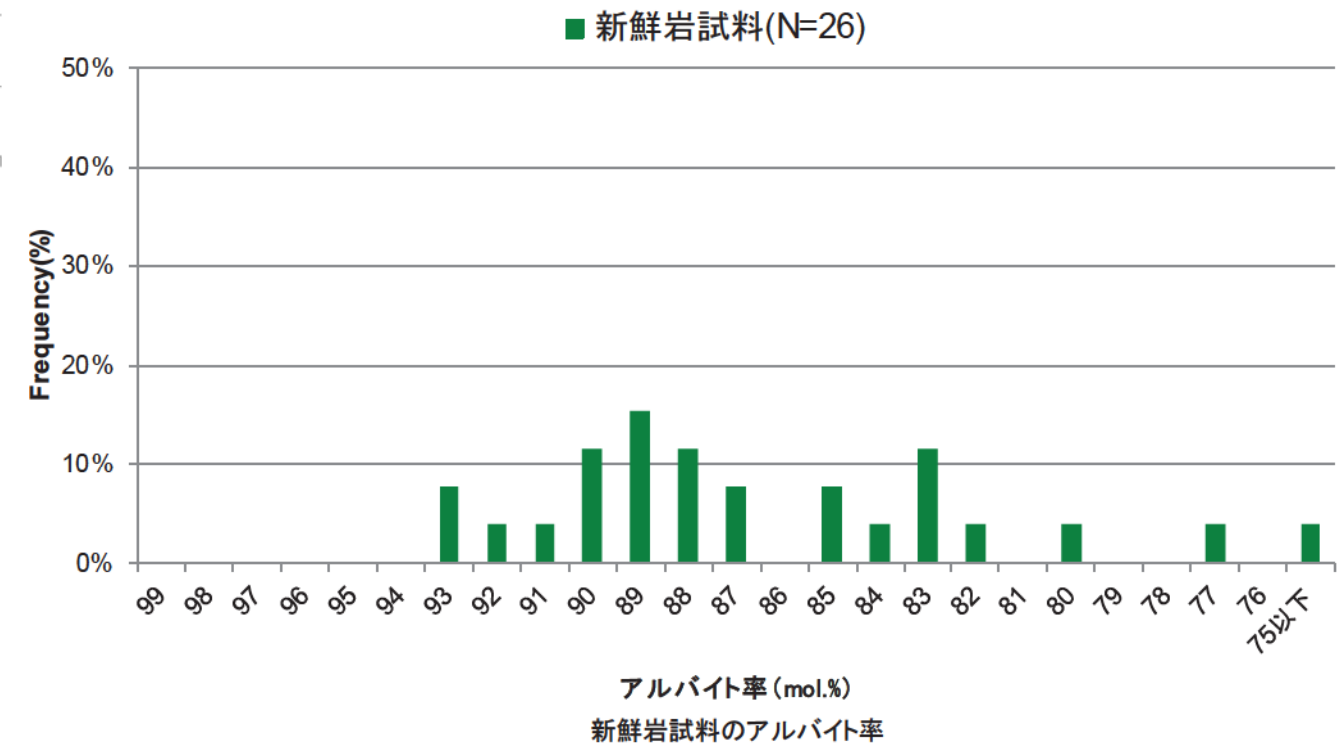
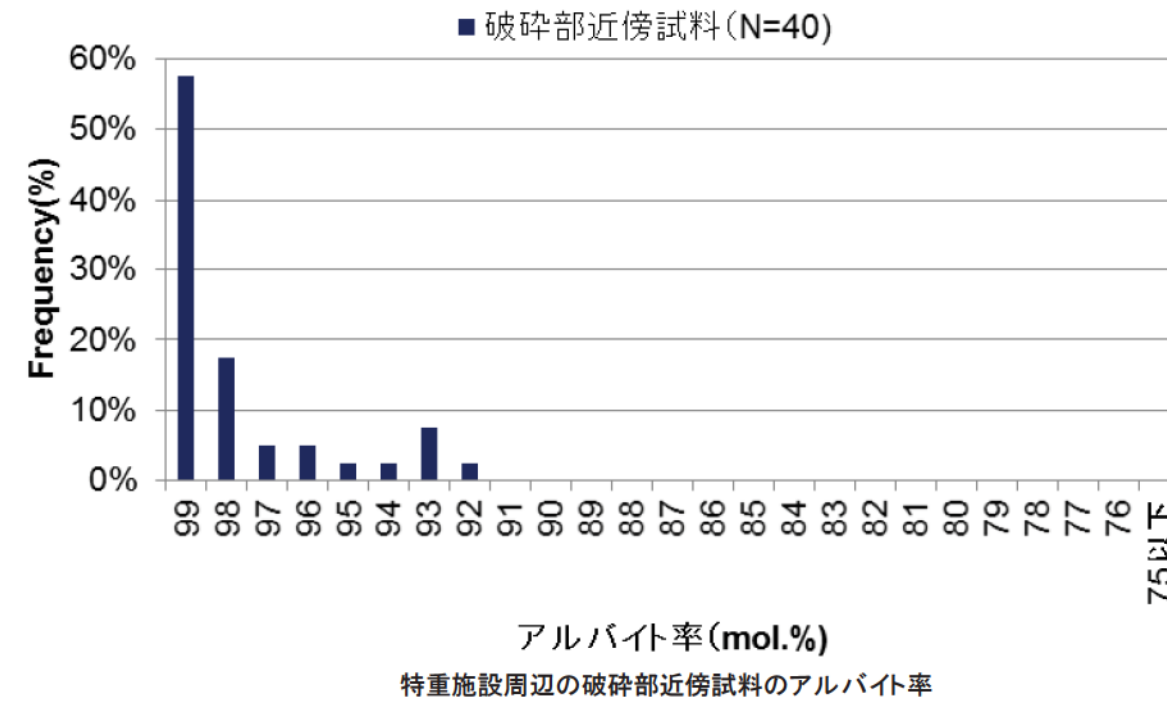
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。



第 1.8.16 図(1) 長石類の EPMA 分析結果(1)

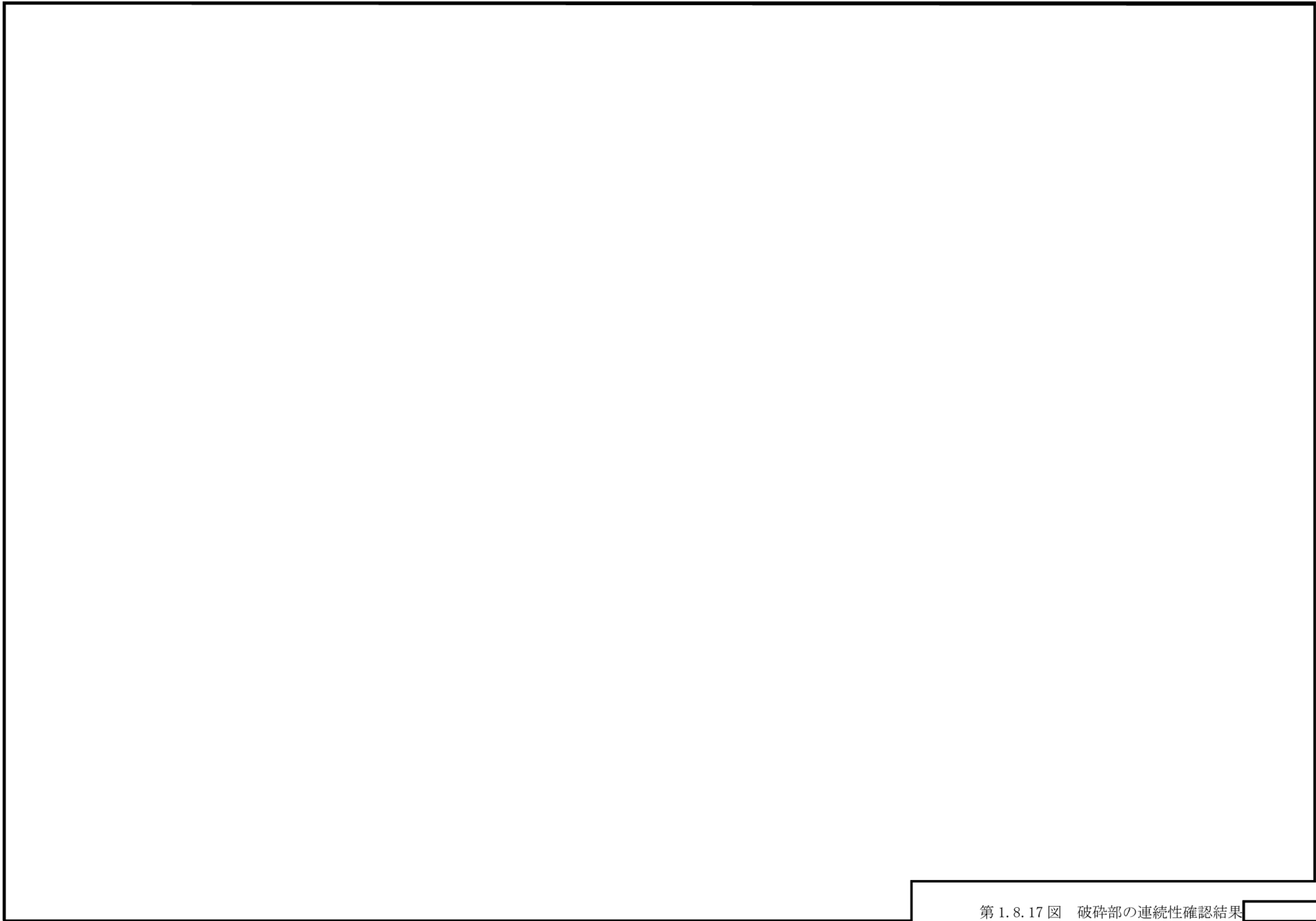
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

長石類のEPMA分析結果(2)



・ 破砕帯近傍試料および破砕帯周辺試料は、母岩と比較してアルバイト率が高い。

・ 特重施設周辺の破砕部近傍および周辺も、敷地内と同様に新鮮岩と比較してアルバイト率が高いことから熱水変質を受けて曹長石化したと判断される。

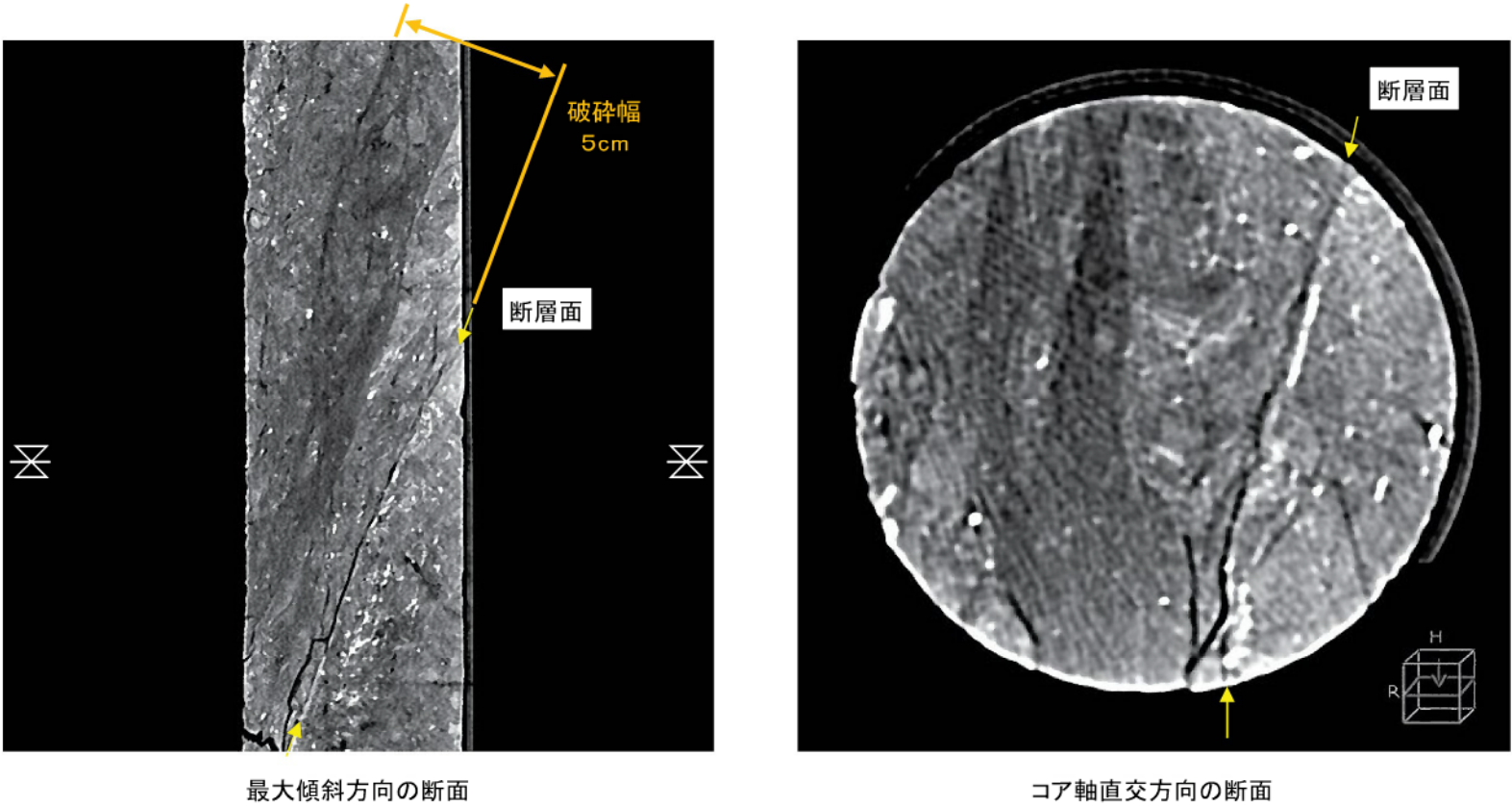
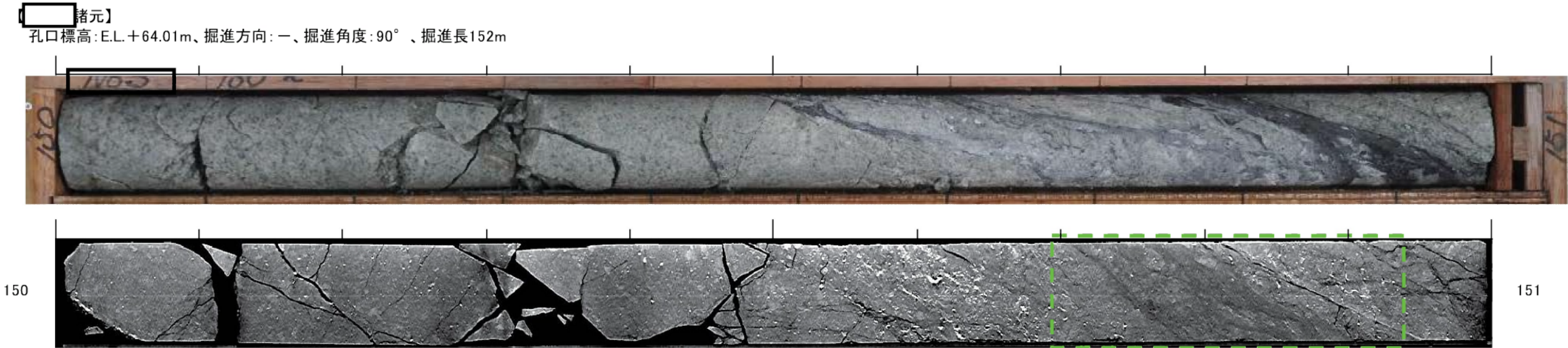


第 1.8.17 図 破碎部の連続性確認結果

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

150.90m付近 CT画像観察結果

CT画像観察により、他の構造に切られず、三次元的に直線性・連続性に富む断層面の観察及び破碎部性状の確認を行った。



コア確認によって認められた破碎部のCT画像観察の結果、断層面に沿って幅5cmの破碎部(粘土幅:2cm)が認められる。

第 1. 8. 18 図 150. 90m 付近 CT 画像観察結果

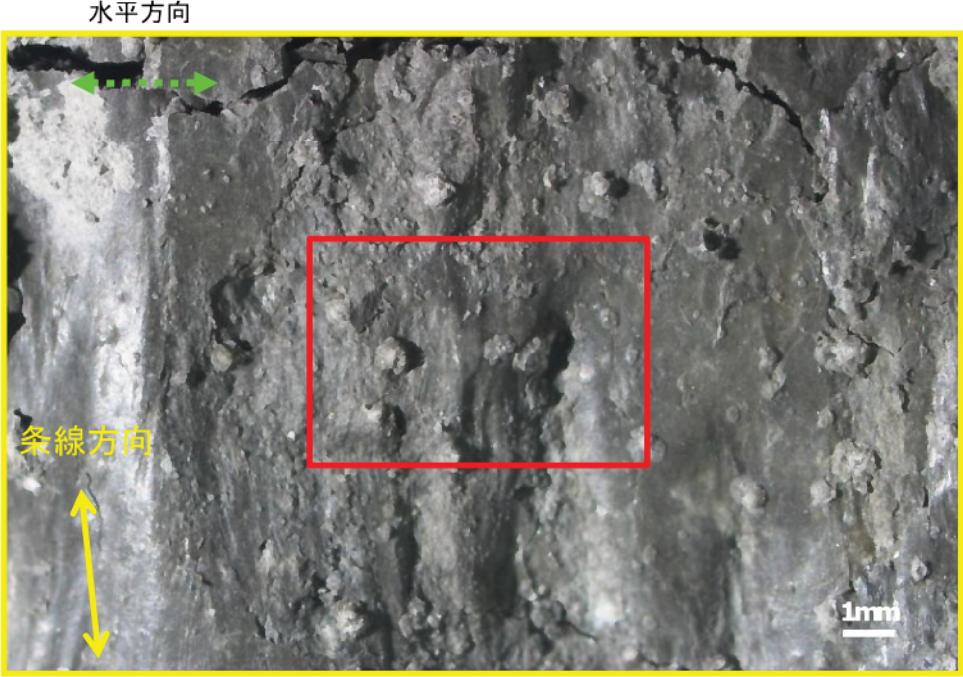
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

150.90m付近 条線観察結果

CT観察における断層面において条線観察を実施した。



断層面(上盤下面)

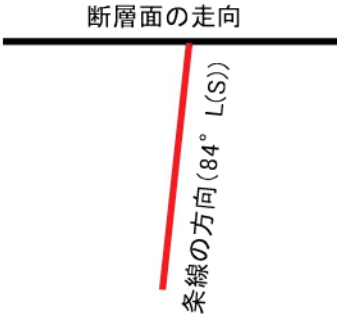


断層面の状況



断層面の状況

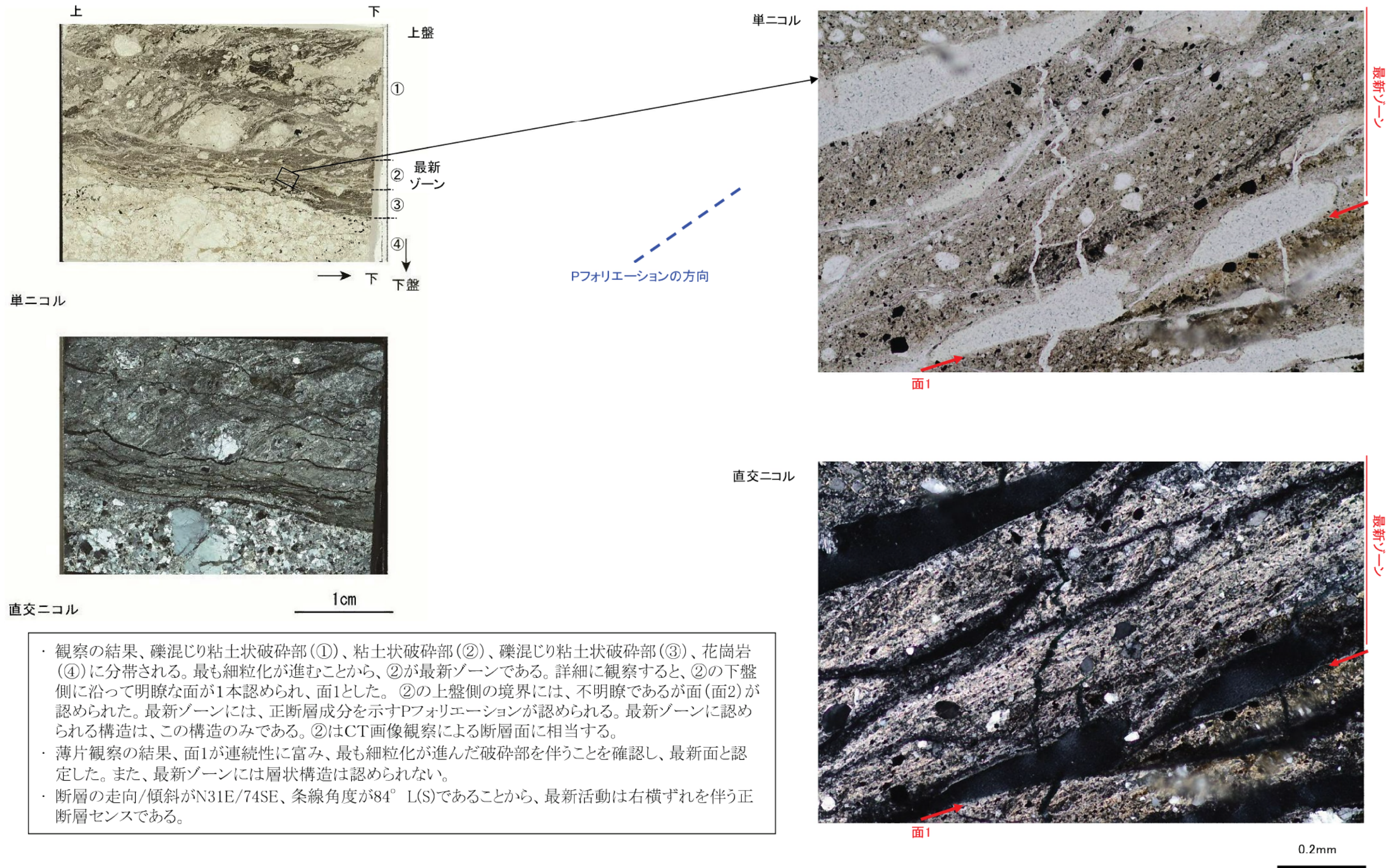
CT観察における断層面において条線観察を実施した結果、レイク84° L(S)の不明瞭な条線が認められる。センスは不明。



条線の方角を示す模式図は、下盤側の上面を上から見た状況を表す。

150.90m付近 薄片観察結果(1)

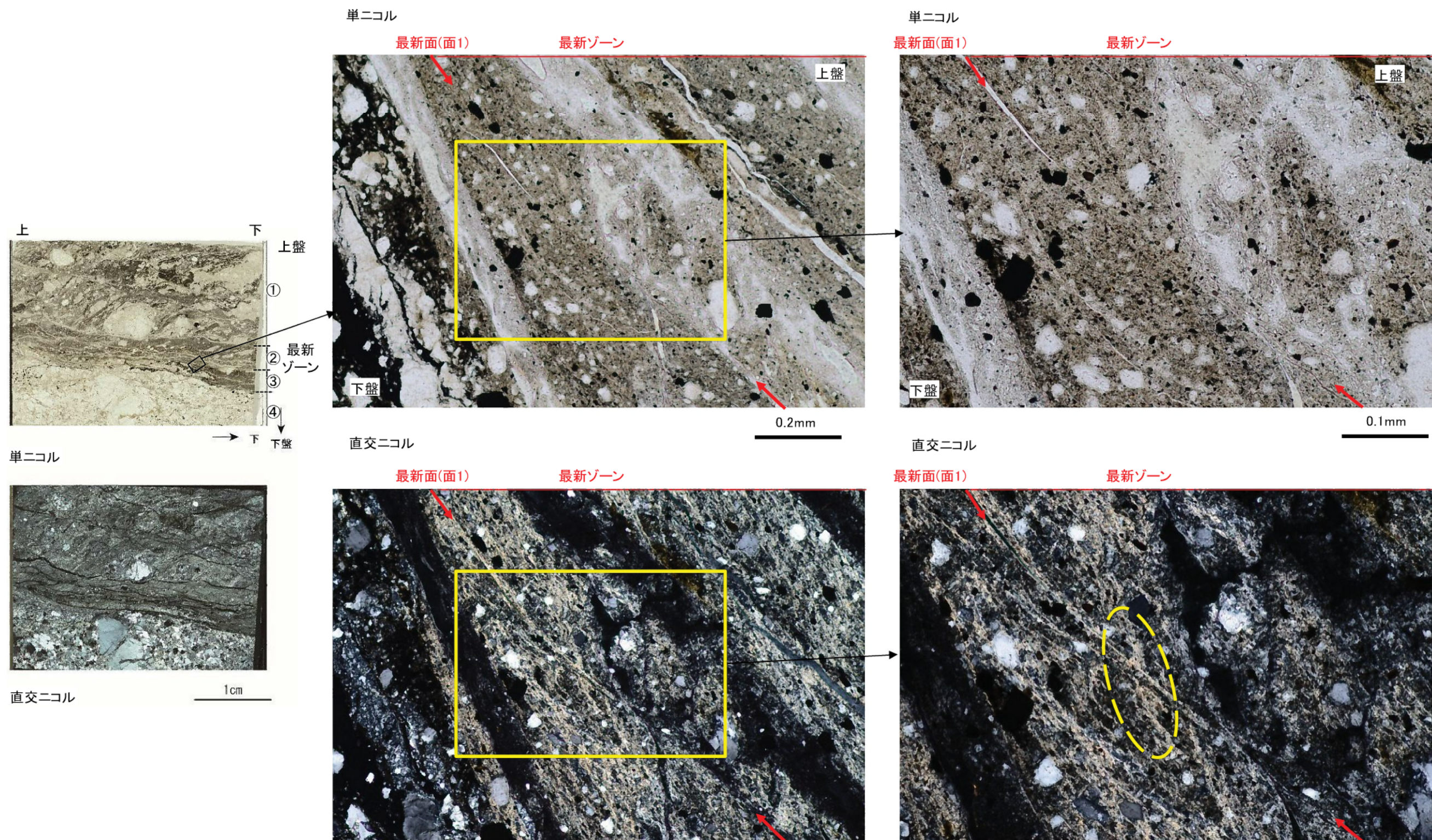
として認定した破碎部のうち 150.90m付近で認められた破碎部の薄片を観察した。



- ・ 観察の結果、礫混じり粘土状破碎部(①)、粘土状破碎部(②)、礫混じり粘土状破碎部(③)、花崗岩(④)に分帯される。最も細粒化が進むことから、②が最新ゾーンである。詳細に観察すると、②の下盤側に沿って明瞭な面が1本認められ、面1とした。②の上盤側の境界には、不明瞭であるが面(面2)が認められた。最新ゾーンには、正断層成分を示すPフォリエーションが認められる。最新ゾーンに認められる構造は、この構造のみである。②はCT画像観察による断層面に相当する。
- ・ 薄片観察の結果、面1が連続性に富み、最も細粒化が進んだ破碎部を伴うことを確認し、最新面と認定した。また、最新ゾーンには層状構造は認められない。
- ・ 断層の走向/傾斜がN31E/74SE、条線角度が84° L(S)であることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

150.90m付近 薄片観察結果(2)

として認定した破碎部のうち 150.90m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



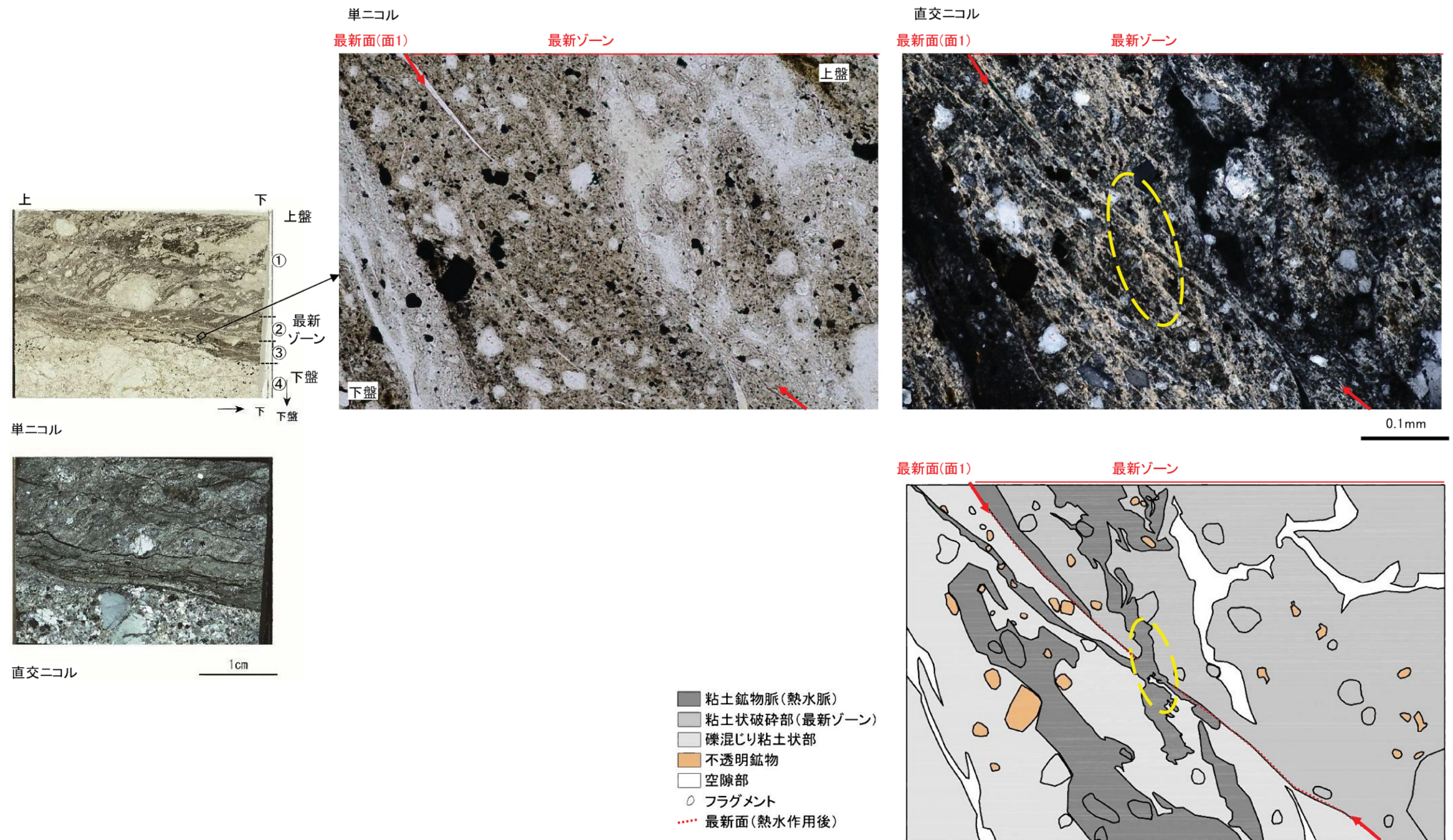
- ・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

第 1.8.20 図(2) 150.90m 付近 薄片観察結果(2)

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので、公開することはできません。

150.90m付近 薄片観察結果(3)

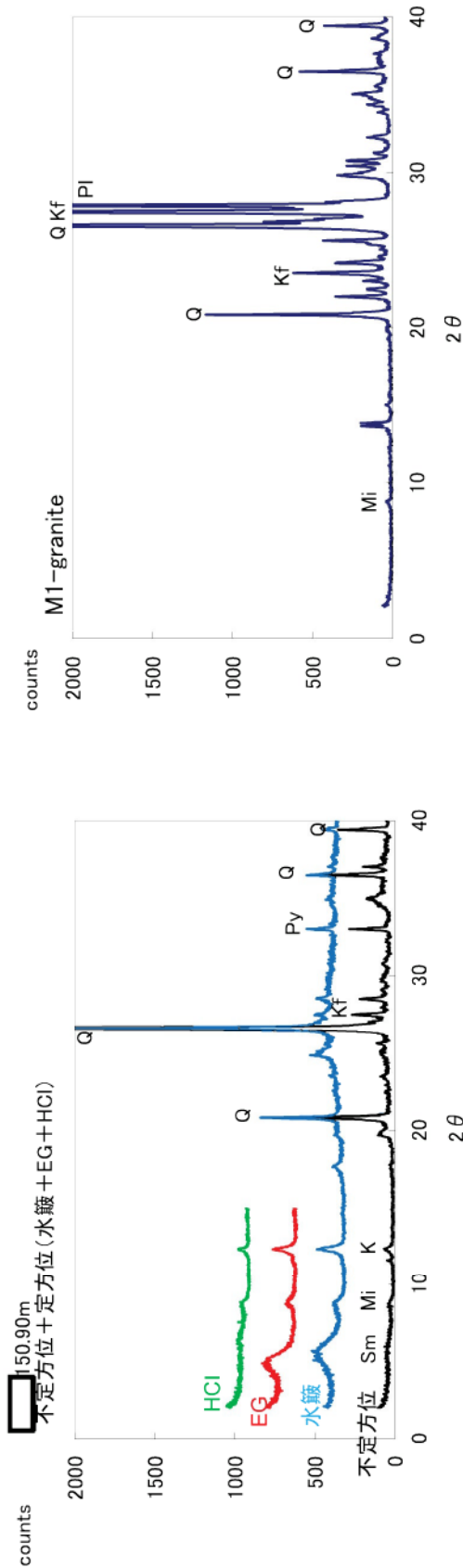
として認定した破碎部のうち 150.90m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細観察結果のスケッチを以下に示す。



・最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
・また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。

150.90m付近 XRD分析結果

ボーリングコア(敷地外No.2孔の深度83m)から採取した新鮮な花崗岩と
破砕部の鉱物組成を比較する。



150.90m 破砕部のチャート

水燐・EG処理・塩酸(HCl)処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため
不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

新鮮な花崗岩※のチャート

※ボーリング敷地外No.2孔の孔底付近より採取

X線粉末回折結果

孔番	深度と性状	スメクタイト	雲母粘土鉱物	カオリン鉱物	石英	斜長石	カリ長石	方解石	黄鉄鉱
150.90m 破砕部		-	-	△	◎	-	-	-	△

(基本は不定方位分析の回折線を使用)

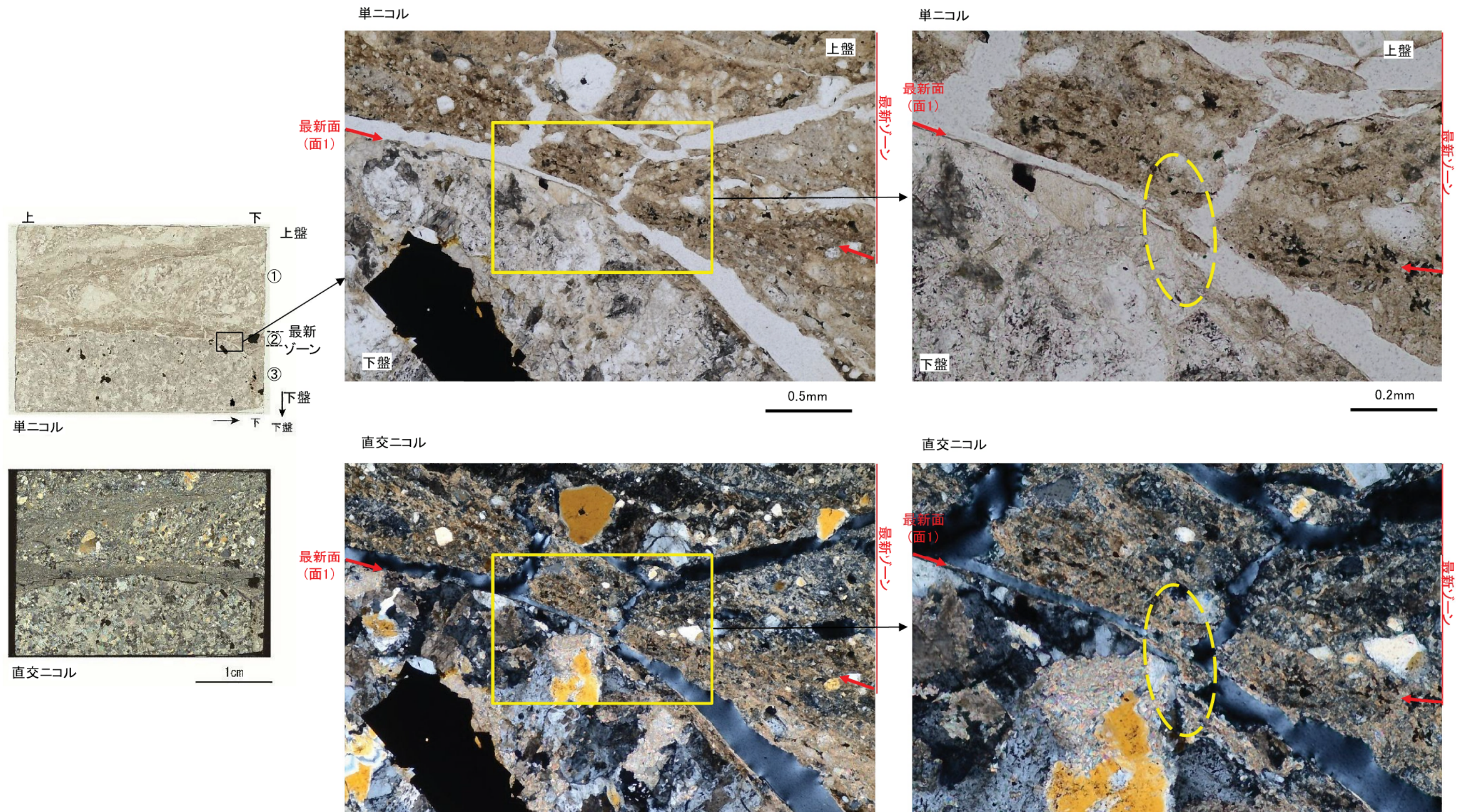
凡例 ◎:多い ○:ある △:少ない -:疑わしい ・:水燐試料のみで確認

- 150.90mの破砕部は新鮮な花崗岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。
- 150.90mの破砕部は、スメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物を生成している。
- よって、150.90mの破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。

104.80m付近 薄片観察結果(1)

CT画像観察、条線観察を実施した上で、 として認定した破碎部のうち 104.80m付近で認められた破碎部の最新面(面1)と粘土鉱物との関係について詳細な観察を行った。



- ・ 最新面(面1)及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達しており、最新面(面1)が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
- ・ また、この粘土鉱物には最新面(面1)を横断しているものがあり、変形していない。